

日本とイランの文化における神器

J. ジャムシディ

この論文が初めて平成 24 年 5 月 26 日に行われた第 35 回関西イラン研究会で発表されたものであります。少々の工夫を加え、訂正した後ここで投稿します。

初めに： 先ず日本の神道を中心に宗教文化に置ける神器とその出現経緯を説明して、そして古代イランの信仰における神器を説明します。最後に二つの文化における神器の存在価値を比較し、共通点を探りたいと思います。

日本の三神器： 日本の神道には三神器を認めます。八咫鏡（ヤタのかがみ）、勾玉（まがたま）、そして草薙（くさなぎ）の剣。

それぞれの神器がいかに出現し、神聖なものとみなされたかことにつきアマテラス大御神の誕生と振る舞いと関連を多大に認めますのでまっ先にアマテラスの誕生の物語から始めます。アマテラスの誕生の物語に関して文献により多少の相違を認めます。古事記とホツマツタエの二つの文献からアマテラスの誕生の物語を紹介します。ページ枚数の関係でかなり省略していますのでご了承下さい。



アマテラスの誕生：A. 古事記による：イザナキの愛妻イザナミが命を落とし¹、黄泉国（ヨミノクニ）に行きました。そうするとイザナキが深くさびしくなったため愛妻に会うのを決め、黄泉国を訪問しましたが愛妻のかわいそうな姿を見ましたとき我慢できずヨミノクニを後にして逃げた。ヨミノクニから無事に生還しましたイザナキは、「私はなんとも言い難い穢（けが）らわしい国に行ってしまった。先ずはどこか水辺に行って身を清めなければならない！」と言って、そして川に入った。いわゆる禊祓（みそぎばらい）を行おうとしました。イザナキが川に入る前にそこらに投げました自分の杖や首飾りや衣服などからたくさん神がうまれたがいずれも穢れから生まれた悪き神ばかりでした。水面に出たイザナキは顔を拭った（ぬぐった）。左の目を洗ったときに生まれたのがアマテラスである。次に右目を洗うと、月読命（つくよみのみこと）が、最後に鼻を洗ったときにスサノオが生まれました。これらの神を「三貴子＝みきこ」と呼んで特別に尊敬しました。自分の勾玉の首飾りをアマテラスに授（さづ）け、「お前は高天原〔天界〕を治めなさい！」と命じた。次にツクヨミに向かって「お前は夜の世界を治めなさい！」と命じ、最後にスサノオに「お前は海原を治めなさい」と命じました。

このような物語りでは三貴子とりわけアマテラスの誕生の経緯が非常識で筋に合わないものですし、ましてアマテラスと言う名前の由来に付いても明解な説明が見当たりません。ホツマツタエの文書ではアマテラスの誕生物語とその名前をどう伝えているか見てみましょう。

B. ホツマツタエによる：（本当の伝え＝古事記と日本書記以前の文献とみなされています）：ホツマツタエによるとイザナキとイザナミが子供を生むために金の鏡を日の御霊（みたま）とし、銀の鏡を月の御霊とし、鏡を両手に持って昼も夜も拝礼していると至高の神（アメミオヤ）の御霊を全身で感じました。日月（じつげつ）の祈りが千日に達すると体調が万全となり、イザナミがイザナキと打ち解けてところが通い合い、受精し、おめでたく妊娠しました。しかし10ヶ月、一年たっても子が生まれません。ようやく96か月後の一月一日に子供が生まれました。しかし、子は円い卵の殻のような胞衣（えな）で包まれていました。サク（現在のしゃく）で膜を裂けるとアマテラスが胞衣の岩戸から出ると、あたりは黄金（こがね）の色に輝きわたった。日の御子アマテラスの誕生です。伯母（おば）のシラヤマヒメがアマテラスの名前をたずねると、「私の

¹ 古事記によるとイザナミが「火」の子を生んだ時に火傷して死ぬと書いてある。死んだ後墓場いわゆる黄泉の国へつれていかれる。「竹内文書」では違うことが報告されている。イザナミが火傷して治療のため母国アフスタン（現アフガニスタン）へ帰国するとなっている。（文献：高坂 和道、竹内文書 II, 徳間書店、2011）同文献によるとイザナキがアフスタンまで彼女を迎えに行ったがイザナミの周辺の人々が集まって彼女を離さず、イザナキを追い払ったとのこと。

名は“ウヒルキ”だよとアマテラスが答えました。“ウ”とは大きくなること、“ヒ”とは日の輪、“ル”とは日の内霊、“キ”は男の名につける木のこと。以上によりホツマツタエによると先ずアマテラスは男神である！そしてアマテラスが誕生時から太陽の輝きであり、そしてアマテラスが太陽を神格化した神となっていました。

次はヤタの鏡と勾玉の神器が決まった経緯について説明します。

アマテラスの岩屋の岩戸物語であります。

スサノオとアマテラスの誓約（うけい）：アマテラスとツクヨミは父の命令に従ってそれぞれの任地につきました。しかし末の弟のスサノオだけは復命せずあごひげが胸元に達するまで、泣きわめいて手がつけられませんでした。イザナキは兄弟の仲でただ一人命令に従わずダダをこねて泣きわめくスサノオに激怒し、ついに「お前はもうこの国〔高天原〕に住んではいけない」と言いスサノオを追放してしまいました。

スサノオがイザナキの父から怒られ天界から追放されてから高天原で身の潔白を証明するため姉のアマテラスとの誓約（うけい）して、子を産む提案をします。もしスサノオが女神を産めば身の潔白の証明となるとの決め事です。先ずアマテラスがスサノオの剣を噛み砕いて三柱の女神を生むと、次ぎにスサノオがアマテラスの勾玉を噛み砕いて五柱の男神を生んだ。スサノオの剣から女神が生まれましたことでアマテラスがスサノオを女神の親としたので、スサノオの身の潔白が証明されました。すると、スサノオは「私の心が清（きよ）いから女神を生むことができた」と勝誇りし、その後もいたづらを続けました。

勝ち誇ったスサノオは歓喜の念を昂ぶらせ（たかぶらせ）、とんでもない乱暴を働きはじめた。アマテラスの田んぼを壊し、用水路を埋めたりし、神聖な場所に、糞を撒き散らしました。アマテラスがこの手あの手弟をかばったりしましたが効果がなくスサノオのいたづらが続きました。さすがのアマテラスも恐れをなしました。そして天（あめ）の岩屋の戸を押し開いて、岩屋の中にこもってしまったのである。これが神話の中でももっともよく知られているアマテラスの「岩戸隠れ」だ。アマテラスが岩屋に隠れて、その戸をしっかりと閉めてしまうと、世の中はにわかに真っ暗になりました。世の中を闇が支配するようになると、次第に悪霊たちの活動が活発になった。悪霊のためにあらゆる禍（わざわい）が一斉に起こりました。

アマテラス奪還作戦：最悪の事態となったことを憂慮した高天原の神々集合して解決を相談しました結果。天の金山の鉄を採って大きな鏡を作らせました。またたくさんの勾玉を作らせ、これを紐に通して長いネックレスのように仕上

げました。ヤタの鏡とネクレスの勾玉を付けた御幣を作らせ、神々が岩戸の前に集まりました。肩甲骨を焼いて神意を窺わせました。準備ができてから神が踊り始め、喜びの八百万の神々は一斉に笑い転げました。外の騒ぎが岩屋の中にも届くと、アマテラスも穏やかではありませんでした。そとの様子が気になって仕方がないアマテラスは、ついに岩戸を少しい開けて見ることにした。アマテラスが踊り狂っているアメノウズメに声をかけ、外の騒ぎの訳を尋ねました。アメノウズメが次のように答えました。「はい、実はあなた様に勝る尊（たつと）い神が出で（いで）ましになったので、それを祝って、喜んで笑っている」アマテラスとアメノウズメがこのようなやり取りをしている間に、他の神たちがヤタ鏡をアマテラスの前に据えました。すると、アマテラスはますます不思議に思って、岩屋の中から顔をだして鏡を覗き込みました。その瞬間、力持ちのタヅカラオがアマテラスの手を取り、力任せに岩屋の外に引き出した。こうして、アマテラスが岩屋の外に出て来ると、太陽が輝き始め、高天原もすっかり明るさを取り戻したのだった。



岩戸隠れ神話が意味するもの：アマテラスが太陽を神格化した神であります。太陽が隠れて真っ暗になるのは冬至のころの太陽の光熱の衰（おとろ）えを象徴していると考えられ、一連の神事は太陽のエネルギーの復活を祈願するものだと考えられています。鎮魂祭が太陽の復活を祈願する祭りであることが知られています。

アマテラスの奪還に役割したヤタの鏡と勾玉が神の象徴として神の子である天皇に神器として代々保護されるようになります。

邪馬台国（やまたいこく）を建国したと言われる女王、卑弥呼（ひみこ）の墓

「とされる平原古墳（ひらばるこふん）」から8キロもなる大きな鉄製の鏡やガラスの勾玉や太刀（たち）などほかの鉄製道具が沢山発見されています。卑弥呼が呪具とした鏡を使い盛んにシャーマニズム的な呪術儀礼を行なっていたと考えられます。または卑弥呼と天照大神を同一視する説あります。



剣の神聖化：スサノオのヤマタノオロチ退治の物語りです。

スサノオが天から追放され見知らぬ土地に降臨し、川辺を歩きながら一軒の家が見えて来ました。中から泣き声が聞こえてきました。家の中を覗くと美しい少女をなかに置いて老人と老婆が力なく座り、三人が手を取り合ってさめざめと泣いているのが見えた。スサノオが事情を聞くと、老人が説明し始めました。「実は私たち夫婦は八人娘がおりした。毎年山からヤマタノオロチがやって来て娘を一人ずつ食べてしまい、この娘だけが残りました。しかし、今年もヤマタノオロチがやってクル時期になり、最後に残ったこの娘も食べられてしまいます。あの凶暴な大蛇から娘を守ることはできません。それが悲しくて泣いていたのございます。」大蛇は真っ赤な目をしており、胴体は一つだが八の頭と八の尻尾をもっている。スサノオはオロチを倒して娘を救ってやろうと約束しました。次の日にオロチが現れた時、酒を飲み、酒に酔った時にスサノオは腰に差していたトツカノの剣を抜き、オロチをズタズタに斬った。オロチの中程の尾を斬ったとき、何かにあたって剣の刃がこぼれた。尾を切り裂いて見ると、中からみごとな太刀（だち）が出てきました。スサノオはこの太刀を取り出し、

天のアマテラスに献上しました。これが三種の神器の一つ、あめの（草薙の剣＝クサナギのツルギ）であります。

剣の講義：伊勢の伊雑宮殿（いざわきゅうでん）に約三千人の物部の武士たちが全国から集まって、剣についてのアマテラスの講義を待った。クシヒコは「剣は人を斬るものですが、それでも宝なんではないか？」と訪ねました。

アマテラスが「矛が剣のもとですが矛で人を斬ることができないので悪者が発生したときこれを処罰する、場合により剣で斬り殺さなければならない。」とこたえる。剣の主要な用途としては悪者を斬るためだとのこと。

360暗以上に相当する罪を死刑の対象にしました。

刑法：わが子を殺すー180暗・・・国払い一流人（さすら）

養子を殺すー270暗・・・髪・爪を抜き刺青をする一人との交流を断つ
妹・妻を殺すー270暗

兄・不生育女（うまずめ）・夫を殺すー360暗ー死刑

親を殺すー360暗ー死刑

養子が親を殺すー400暗

200暗以上：島流し・・・流人（さすら）

240暗以上：髪・爪を抜き刺青をする一人との交流を断つ

360暗以上：死刑

日本の三神器のまとめ：日本の三神器の存在価値のまとめを紹介します。

実体には外面と内面があるとしますと三神器にも例外なく外面・内面の角度から評価出来ます。**鏡の外面的な用途**について様々な説が述べられていますが古代において主として船の航行時に太陽の光を反射させ、海路を照らすと同時に到来を遠くへ知らせるために鏡が利用されていたようです。鏡はやはり客体を映し出す道具として使用されたには間違いないようです。**鏡の内面性**または意味的な概念はアマテラスの「知」に対応する。「知」は知的、知恵、知識、知性、知能、知覚などの全ての派生語を含めるでしょう。

勾玉の**外面性**について勾玉が飾り、首飾りとしてイザナキから娘のアマテラスに授与されました。勾玉の飾りにより神の魂に保護される恵（めぐ）みの象徴でもあります。勾玉の形については弥生時代までは決定的な物なく弥生時代なってから現在まで形を変えていないそうです。「お腹の中の胎児を型どった胎児説」、「三日月説」、「腎臓説」がありますが太陽と月が重なってできた形だとの説が有力であります。

勾玉の**内面性**は神の「仁」に対応します。仁愛、仁義、仁政、仁術の全ての派生語を含めるでしょう。勾玉のネクレスが神や宇宙とのつながり、あるいは

命の連関の象徴でも解釈されています。

剣については剣の**外面的な側面**とした**道具の用途**はすでに述べました通り悪者を処罰する道具であります。剣の**内面的意味**は神の「勇」に対応します。勇氣、勇敢、勇士、勇躍などのすべての派生語を含めるでしょう。

調和した三要素「知」、「仁」、「勇」をもち合わさった至高な神は地上の天皇およびその統治下にある人々の生活の規範となります。

آئینه 八咫鏡



باطن:

(دانائی) (知)

知的、
知恵、
知識、
知性、
知能、
知覚、

مهره 勾玉



(التفات و شفقت) (仁)

仁愛、
仁義、
仁政、
仁術、

شمشیر 草薙の剣



(شجاعت) (勇)

勇氣、
勇敢、
勇士、
勇躍、

イランの神器：これから古代イランの主な三神器を紹介します。日本と同様、鏡、リング（輪）または指輪、剣を認めます。



鏡



(金) 輪（リング）
玉＋輪（指輪）

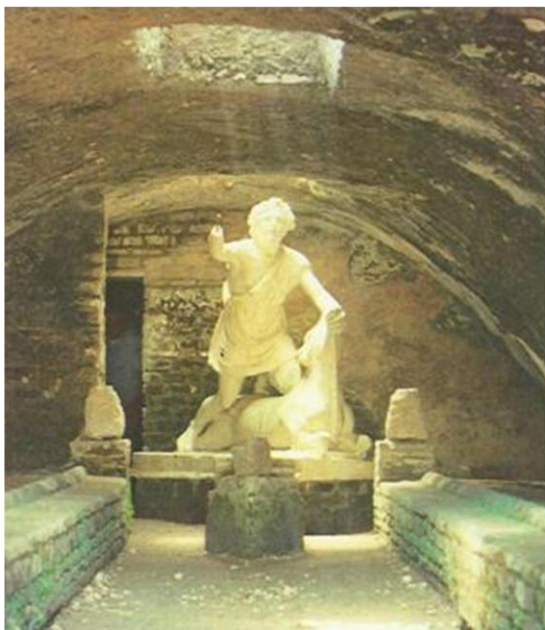


剣

太古より世界で最も早くからイランが太陽を神格化し、太陽信仰を土台にした新しい宗教や文化を形成しました。

ミトラが岩屋の岩石から生まれ太陽の輝きを象徴する存在とされまし。太陽の輝き、温熱、生命のエネルギーとしてインスピレーションの源泉となり、宗教的な行事や儀式に限らず国民的なお祭りや行事にも多様な形で表象されるようになりました。

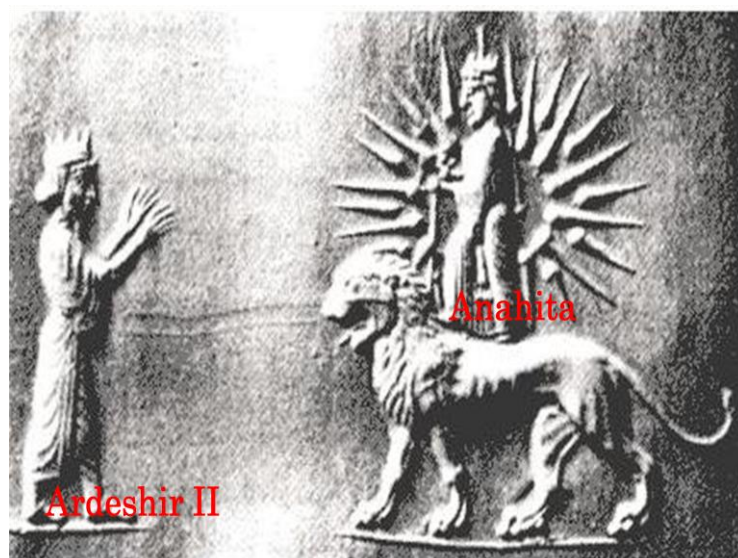
礼拝堂の中で太陽を浴びるミトラ



ミトラの誕生



ライオンの背中に乗ったアナヒタが Ardeshir 二世を前にしたレリーフを示します。アナヒタの頭後ろの21の放射線状の輝きは太陽を表現していると考えられます。



または太陽を象徴する「火」を大切にし、拝礼します。拝火儀式や祭りがゾロアスター教ではよく知られており、現在でも行われています。このスライドはイランの正月 nowruz（3月21日春分の日）の50日前のサデー際の光景であります。しかし「火」を拝礼する習慣はゾロアスター教よりはるか以前から行われていたとも言われています。

ゾロアスター教の Ahura-Mazda(AM)が自分の輝きから「火」を起こし、宇宙を創造しました。そして「火」が地上にも AM の象徴と見なされ、三種類にランクされました。ファランバグ（神の火）が最も神聖な火でゾロアスター教信者の祭壇とされました。



イランの歴史における太陽の現し方は「火」の他に様々有りました。「日」はディスク状の図形で表されたり、パルティアン国の象徴的国旗となったり、またはササン朝の王達の王冠にも採用されました。放射状に表現された日がやがて国旗に採用され、政変までイランの国旗の中心的なモチーフでありました。



パルティアン国の国旗

古代イラン文化では人間が五つの階層から構成され、そして人が死亡すると各構成部分がそれぞれの元の神のところへ旅立つと考えました。

死亡後、人の **Jesm**(身体) が大地の神 **Aramaieti**、へ、**Jaan**(生命)、が神 **Baad**、へ、**Urvan**(感覚) が、**Faravahar** へ、**Daenaa**(信仰) または **Aaineh**(鏡) が神太陽へ、そして **Farr**(霊魂) が **AM** へ合流します。

Daenaa という言葉は現在の **Din**(宗教) の言葉に相当しますが人間の基本意識、善し悪しを区別する能力と説明されます。**Din** または鏡は太陽その性質を象徴し、**AM** の知性・光明さ・清潔さ・公正さを反映し地上を平和に変えさせる大切な道具と考えられました。

宇宙観を展開する **Bondehesh** によりますと神の霊魂 (**Farr**)が付与された太陽が死者の合流する拠点であり、不死・不滅の馬のような存在であります。この馬が大変力持ちで美しく、走りが早くて闇や鬼を絶滅できるものであります。少しでも遅れると鬼たちが全生命を奪ってしまいます。

ゾロアスター教の当初から鏡が **AM** の知性、純粹さ・公正さ・光明さを象徴した物とし、イランの正月の **Sofre-Haft-Sin** や婚約式の備え (**Sofre-Aghad**)の必須品目となっています。いずれの場合でも鏡の両側にろうソクを立てます。ろうソクは光と火を象徴します。光や火を反射させる象徴的な神聖な鏡の備えとこのことであります。鏡の備えは **Sofre Haft-Sin** の場合 **AM** 知恵の存在を思い起こし、婚約式の場合は福の鏡と言われています。婚約式の時顔を隠した新婦が後から入室し鏡を囲んだ格好で新郎のそばに座ります。新郎が新婦のベールを外し、鏡に映し出された新婦の美しい顔を最初に拝見し感動します。

Sofre- Aghad



Aaineh Bakht

Sofre- Haft-Sin

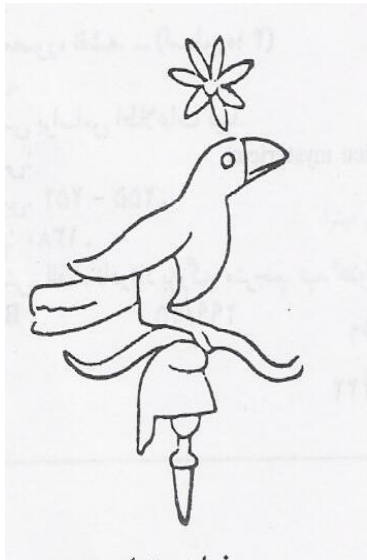


Aaineh Farrahi

イラン文化に置ける剣の位置づけについて紹介します。何といたっても剣の物語を最も古い時代、ミトラ信仰時代に求めなければなりません。

ミトラの五つのお使い、つもり星、カラス、弓、フリジ帽子（烏帽子）と刀がよく知られています。ミトラが約束・慈悲の神、人を裁く立場にもありました。

地上に降臨した時刀を用い、悪者を裁くと同時に地上に平和と繁栄をもたらすためでありました。ミトラの聖牛の屠殺もこの目的に沿った行為とみなされています（写真を省いています）。



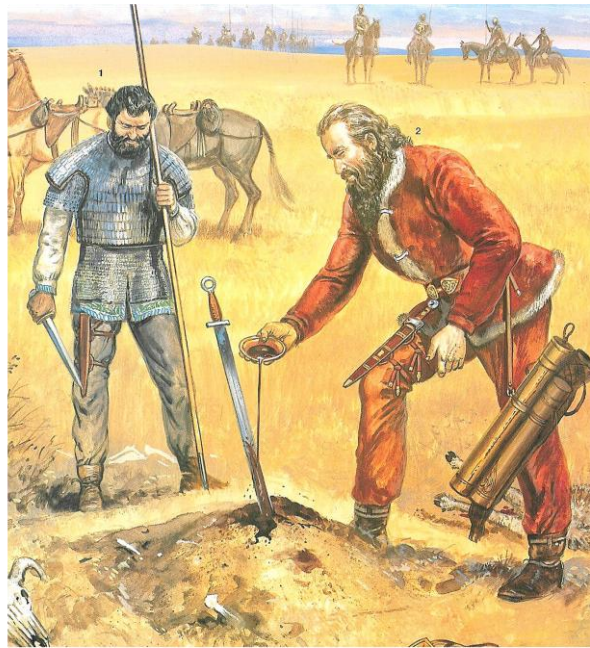
ミトラの5つのお使い：星（シリウス）、カラス、弓、フリギア帽、刀

ミトラの剣が大王の承認式に登場する光景であります。ササン朝ペルシアの大王 Ardeshir 二世が右側の AM から承認のリングを受諾します。一方後ろから大王に敬意を表す Ardeshir の騎士としてのミトラが剣を翳す（かざ）しているように見えます。太陽がミトラの頭後ろに放射状に、そして Ardeshir 二世の王冠に丸いボールの形をしたように示されています。

صحنه تنفيذ اردشير دوم بوسيله اهورا مزدا 承認 Ardeshir II による Ahura-Mazda



サカ族の間では戦死した仲間のお墓に剣をさし、ラムの血を注いだ後、死者を悼むと言う習慣がありました。剣が人に敬意を表すために使われていました。一方ライオンと剣と太陽の3セットモチーフが初めて19世紀のカジャール王朝の国旗に導入されます。ライオンと剣のモチーフが権力あるいは主権を意味することでカジャール王朝以降もこのモチーフが続きイラン政変まで継続していました。



戦死した仲間の墓に剣を刺し、ラムの血を注ぎ、礼拝するサカ族



カジャール王朝の国旗

剣とリングの神秘的な存在について Avesta の vandida に記述が残っています。vandida はゾロアスター教の戒律あるいは法律を紹介した本であります。ジャムシッド王に付いてのゾロアスターと AM の会話の一部を紹介します。ゾロアスターが「私の前に誰に預言者を依頼しましたか」と AM に訪ねました。AM が「ゾロアスターの前にジャムシッド王に預言者を依頼しましたがことわれました。」と答えました。しかし「私の教義を人々の間に広めなくとも私の創造した人々を守り数を増やしてほしい。」とジャムシッドに注文づけました。「ジャムシッドが私の注文を受け入れたから黄金のリングと黄金の剣を渡し、そしてかれの支配を可能にしました。」

時間が立つにつれ人々や動物の数が増え続けたためジャムシッドの統治下の国の領土がますます狭くなり生活が不可能となります。生活を可能にするためにいつもジャムシッドが黄金のリングを地面に押し込んで黄金の剣で地面を裂けて領土を拡張したりしていました。

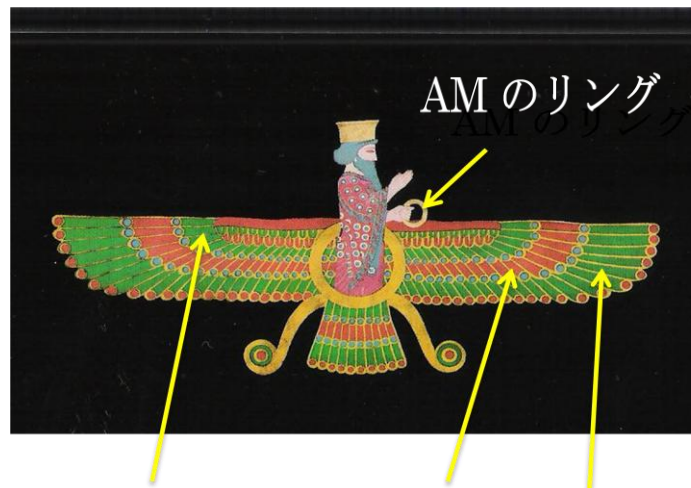
黄金のリングと剣の役目に関して様々な解説が紹介されています。有力な説が二つあります。一、リングや剣が農業に使われる機械類をさしていると外面的な存在を主張すること、二、黄金のリングや剣が神の言葉（言霊）のような神秘性を持ち困った時にお祈り代わりに使うと成功に導かれるとのことで内面的な意味を主張する説も紹介されています。

いろんな契機において象徴的なリングの登場を確認出来ます。

AM の霊魂とのつながりを象徴すると同時に AM に忠誠を印象づけ、ふさわしい権力者に授与されるリング、このリングがファラワシの左手にも見られます。ちなみに右手が祈りの手と考えられました。フラワシのウェストに付いているリングのたとえと考えられるベルトが Goshti または「宗教の紐」と言い、AM への忠誠を象徴するものでありますが信者が紐を体に三回巻きます、紐の三階巻きとはゾロアスター教の三柱の行いつまり、善の思考、善の言葉、善の行いの選択を示唆されたものと説明されています。

人々の結びつきあるいはお互いに対する約束を示唆する握手で作るリング。ちなみに初めて握手を交わした人々がミトラ信者だったとの説が論じられています。

やがて婚約を象徴するリング。これも結びつき、約束の象徴ではないでしょうか。リングを左手指にはめるということは右手が祈りの手だからと説明されています。



AMのリング

善の思考、善の言葉、善の行いの
を象徴するベルトの三重巻き



結婚のリング



握手のリング

最後に神聖な剣とリングが王の象徴な持ち物とした **Shahname**（王の書）から物語を紹介します。ファライドン大王が三人の息子が有りまして、統治下の広い領土を彼らのふさわしいさによって分けますが三男のイラジュの分け前に対して他二人の兄弟が不満を漏らし、彼を憎み、殺害すると警告します。イラジュがお父さんファライドン大王にこう話します、「自分が兄弟に会い彼らと和解する決意であり、全領土も彼らに譲歩する用意があると。」イラジュがお父さんを**剣とリング**をお持ちの大王という呼び方をします。古代から王朝における代々受け継がれた王の象徴的な持ち物として剣とリングが欠かせない物とされてきました。

総合まとめ：最後のまとめとして日本とイランの三神器を比較して見たいと思

います。三神器には外面的な、内面的な特徴を認めます。三神器の外面的な側面では道具としての用途に付いては光を反射させたり、客体を映し出したりする鏡、そして飾り用品とした玉やリングまた指輪、そして悪者を処罰する劔がいずれの文化においてもほぼ同じ使い方であると確信できるでしょう。

内面的な視点から三神器を見ますと表現の違いがあるもののいずれの文化においても先ず高次元の神の唯一性と偉大さを印象づけられ、そして人間に対する神の優しい側面と反面、厳しい側面を思い知らされるものであります。

太陽の輝きを象徴するアマテラスと AM のいずれも知的な神であり、地上の全ての存在を超えた全知、全力を象徴する者であります。鏡が神の知性、光明さ偉大さを印象づけるものとしていずれの文化においても同様であります。

次は神と人間との結びつきを示唆しこれを徹底化するため神の優しい側面を象徴する品として日本文化では勾玉、イラン文化では黄金のリングが登場します。勾玉のネックレスと黄金のリングが皮肉な事にいずれにおいても神とか宇宙とのつながり、存在の連関を表象するものではないでしょうか。勾玉と黄金のリングで持って地上の君主や人々に対する神の慈悲を象徴し、人々の悩みや苦悩を和らぎ、生きるエネルギーを与える意味を含んだと考えられます。

最後に神が全て優しさのみではなく優しいさの反面、秩序を荒らす者に対して厳重に対処する顔を印象づけるため大切な道具、劔が登場します。

日本とイランの神器の比較				
日本	外面 (形態)			
	内面 (意味)	知 (دانانی) 知的、知恵、知識、知性、知能、知覚、	仁 (شفقت) 仁愛、仁義、仁政、仁術、	勇 (شجاعت) 勇氣、勇敢、勇士、勇躍
イラン	外面 (形態)			
	内面 (意味)	知的 (دانا) 潔白、光明、公正	忠誠 (وفاداری) 約束、結びつき、調和、言霊、	正義 (داد) 裁き、尊敬、言霊、成功、

日本文化ではこの道具を勇気の象徴そしてイラン文化では正義を守るための道具と言う言い方を用いるがいずれも神の怖い側面を思い知らせるものであります。

以上により、日本とイランの宗教文化における三神器は外面内面のいずれにおいてもおおむね共通した宗教文化的な存在価値を示唆した者ではないかとの認識を強く持ちました。

文献

日本語：

1. 瓜生 中、知っておきたい 日本の神話、角川ソフィア文庫、2007
2. 鳥居 礼、ホツマ物語一神とオロチ、新泉社、2010
3. 高坂 和導、竹内文書 II, 徳間書店、2011
- 4.
- 5.
6. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8A%85%E9%8F%A1>

ペルシア語：

7. بُنْدَهَش، نویسنده: فَرَنْبَغ دادگی- گزارنده: مهرداد بهار- چاپ سوم ۱۳۸۵ انتشارات توس
8. مجموعه قوانین زرتشت یا ونیدیا اوستا- دارمستر، ترجمه دکتر موسی جوان- انتشارات دنیای کتاب
9. شاهنامه فردوسی- به انتخاب محمد علی فروغی- نشر نیکا، ۱۳۸۴